

事業の
ポイント

オンライン研修と対面研修の融合による県全体での教員支援体制を構築
「指導と評価の一体化」の推進による言語活動を中心とした授業の充実、英語力の向上
「徳島版小中高連携チェックリスト」の作成による小中高連携の推進、成果普及

当該地域における課題

① 生徒の英語力

中学生（CEFR A1レベル相当以上）及び高校生（CEFR A2レベル相当以上）の英語力について、「第4期教育振興基本計画」の目標値達成に向け、授業における言語活動の質・量を改善し、生徒が英語を使う機会を十分に確保することで、さらなる向上を図る必要がある。

中学校 55.4%（50.0%）

高等学校 55.1%（50.6%）

② 指導と評価の一体化

中高ともにパフォーマンステストの実施状況に課題があり、それは発信技能における「指導と評価の一体化」についての理解と実践が不十分であることに起因すると考えられる。

<スピーキングテストとライティングテストを両方実施している学校の割合>

中学校 81.9%（87.0%）

高等学校 59.4%（49.8%）

③ 校種間の円滑な接続と指導の連携

小中高連携と比べて、高等学校と小・中学校との連携の割合は低く、単発的な交流・連携は実施しているものの、校種間で連携する目的が十分に共有されておらず、継続した連携に向けて校種間の情報交換の方策に改善が必要である。

<全ての中学校のうち、小学校と連携している（連携する予定）学校の割合> 100%（82.8%）

<小学校との連携を実施した（する）高等学校> 14.3%（9.3%）

<中学校との連携を実施した（する）高等学校> 28.6%（21.7%）

【出典】R5英語教育実施状況
:本県（全国平均）

2か年の取組内容

- 「生徒の英語力向上推進事業」運営指導委員会の設置・運営【小中高】（課題①～③）
本県が直面する英語教育の課題を解決し、生徒の英語力を向上させるために、大学教員や外部人材などの委員からなる運営指導委員会を設置・運営し、多角的な意見を得るとともに、事業完了時の本県英語教育の状況を検証し、今後の本県英語教育施策への有益な意見を得た。（年2回）
- 各種研修会と実践事例等の共有及び各校における実践【小中高】（課題①②）
（小学校）「小学校教員のための英語運用能力向上研究会」を実施し、児童の英語能力の定着を見据えた教員の授業力及び授業運営に必要な教室内英語運用能力の向上を図った。あわせて、講師・事務局・受講者をつなぐプラットフォームを構築し、受講者間のネットワーク形成と連携強化を促進した。
（中学校）英語4技能育成事業研究会を実施し、令和6・7年度で全ての学校から英語科教員が参加し、令和5年度全国学力・学習状況調査の結果を踏まえ、授業力の向上やテストの充実を目指した。また、英語能力向上事業では、英検IBAの実施をとおして、生徒は自分の英語力の伸びを確認し、教師は生徒の学習状況を把握し、指導と評価の改善を目指した。
（高校）全校悉皆による「授業づくりの工夫と実践のための研究会」を実施し、1年目は「目標・指導・評価の一体化を目指した授業づくり」「教員の英語力を高め、生徒の英語力を伸ばす授業実践」「他校種の実践から学ぶ」を、また2年目は「論理・表現の授業づくり」「書くことの指導と生成AIの活用」「深い学びの充実」を、それぞれテーマに設定し、ワークショップや受講者同士の協議、実践共有を通じて学びを深めた。
- 実践的オンライン研修を生かした授業改善への取組【小中高】（課題①②）
小学校では、プラットフォームでの事例共有や相談体制を基盤とし、外部講師による指導助言、オンラインミーティング、公開授業といった多角的な研修を通じて、継続的なフォローアップ体制を整えた。中学校では事後研修で実践を共有し、高校では授業動画を撮影し、研修講師による専門的な助言を活用して授業改善を図った。
- 小中高連携を踏まえた英語教育リーダーの育成【小中高】（課題①～③）
小中高からそれぞれ2～3名の英語教育リーダーを選出し、校種間連携の促進に向けた研究に取り組んだ。1年目は「話すこと [やり取り]」、2年目は「書くこと」に焦点を当て、研究協議会や公開研究授業等を通して校種間連携を踏まえて指導法および評価方法を深化させた。

**【徳島県】 生徒の英語力向上推進事業（R6～R7年度）****● 小学校における客観的アセスメントテストの実施【小】（課題②③）**

アセスメントテストの実施を通して、「英語を使ってできること」の積み重なりを子供たちが実感できる学びを実現し、先生方には「指導と評価の一体化」を具体化する機会を提供した。

● 英語を使う機会の提供【小中高】（課題①）

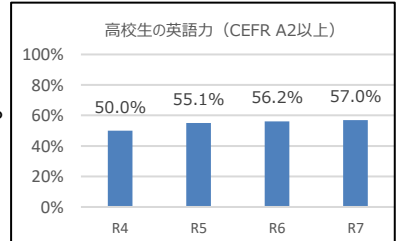
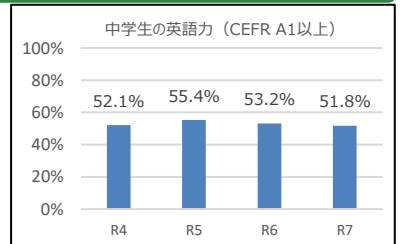
小学校では国際交流プロジェクト「Hello to the World」、中学校ではAWA English Study Camp、高校では徳島と世界をつなぐグローバルリーダー育成事業を実施し、児童生徒が英語を使う機会を提供した。

取組に関する成果の検証**◆ 課題①に対する成果の検証**

[中学校] 生徒の英語力は、過去4年間で50%を超える水準ではあるが、R6、R7では微減の傾向にある。運営指導委員会において「指導と評価の一体化」の実現の難しさを指摘する意見が出されたことを踏まえ、同取組に対する教員の理解を一層深めるとともに、言語活動を中心とした授業改善を推進していく必要がある。

[高等学校] 生徒の英語力は、過去4年では向上傾向にあり、全校悉皆で実施した「授業づくりと工夫のための実践の研究会」において、言語活動を中心とした授業の実現に向けて取り組んだことが要因の一つとして考えられる。

【出典】英語教育実施状況調査

**◆ 課題②に対する成果の検証**

[中学校] 英語4技能育成事業研究会をととして、指導と評価の一体化への意識を高めることができた。（受講者の感想）活動と評価の観点がはっきりとした言語活動を行いたい。／適切な評価問題を作成したりパフォーマンステストを実施したりできるよう、研修で得たヒントや改善方法を取り入れていきたい。実践的オンライン研修の事後研修会では、受講者同士で各自で実践における成果と課題を振り返り、共有することで指導と評価の一体化への理解が深まった。

[高等学校] 英語教育実施状況調査（R6）によると、スピーキングテストおよびライティングテストの両方を実施している割合は57.9%にとどまっており、指導と評価の一体化に向けて、パフォーマンステストの実施をさらに推進していく必要があり、「授業づくりの工夫と実践のための研究会」では目標・指導・評価の一体化を目指した授業改善に向け、学びを深めた。また、実践的オンライン研修では、研修講師や県教委指導主事より、受講者の実践における成果と課題に対して個々にフィードバックを行い、指導と評価の一体化について理解を深めるなど、さらなる授業改善を推進した。

◆ 課題③に対する成果の検証

英語教育リーダー育成事業では、各校種のリーダーが、R6は「話すこと [やり取り]」、R7は「書くこと」について、校種間連携を意識した研究授業を行った。これらを通じ、校種間の相違点や共通点を踏まえた指導の重要性について、深く認識を共有する機会となった。これらの成果を基に、各校や校種間で取り組むことが考えられる内容をまとめた「徳島版小中高連携チェックリスト～校種間の学びをつなげるために～」を作成した。また、小学校におけるアセスメントテストにより、客観的なデータに基づいて、クラス全体や個々の児童の学習状況をより精緻に把握・分析できるようになるとともに、中学校へのスムーズな接続を見据えた長期的視野を持った指導へと教員の意識が高まった。

当該地域における成果の普及の取組

- 徳島県英語教育推進計画COMPASS「指導と評価の一体化」サイトへの掲載
<https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private/>
- 学校訪問、研修、教育課程研究集会等において、外国語科担当教員に対して「徳島版小中高連携チェックリスト～校種間の学びをつなげるために～」や授業実践例、評価問題例等を配布・紹介

今後の取組

- 「目標・指導・評価の一体化の促進」「校種間連携の充実」「英語を使う機会の提供」を3つの柱として、生成AIの活用を視野に入れて取組を充実させる。

徳島版小中高連携チェックリスト

～校種間の学びをつなげるために～

このチェックリストは小・中・高の連携において、取り組めることとして考えられるものをまとめたものです。校種間の学びをつなげるために活用し、取り組めそうなものから始めていきましょう。



1. チェックリストについて

(1) 徳島版小中高連携チェックリスト1

各自・各校で取り組める内容の例をまとめています。校種間での学びを円滑につなぐため、共通点や相違点への理解を深め、日々の授業づくりに活用しましょう。

(2) 徳島版小中高連携チェックリスト2

主に校種間で連携して活動する際の内容の例です。異校種の教員同士で研究授業や授業研究会、連絡協議会等を行う際の参考資料として活用しましょう。

2. チェックリストの活用が考えられる時期や場面

- ・年間指導計画を作成するとき
- ・単元計画や毎時間の授業計画を作成するとき
- ・校種間連携を踏まえて研究授業等を実施するとき
- ・評価を行う前
- ・1年間の指導の振り返りを行うとき

※ このチェックリストは、これまでの県内の先生方の取組を踏まえて、令和6・7年度の「徳島県教育委員会小中高連携を踏まえた英語教育リーダー育成事業」に参加された委員・アドバイザーの先生方の御協力のもと作成しました。



徳島県教育委員会

徳島版小中高連携チェックリスト 1

～校種間の学びをつなげるために～

(主に各自・各校でできること)

主に各自・各校で取り組める内容の例です。目的に応じて活用しましょう。(ウェブページを見る場合は□を、詳細版で内容を確認する場合は番号をクリックしてください。)

学：学習指導要領解説 指：「指導と評価の一体化」サイト 教：教科書 W：ウェブサイト

1. それぞれの校種での目標を理解するために

- ① 学 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧(小・中：付録6、高：付録8)
- ② 指 各領域の学習到達目標(小・中)
- ③ 教 目次や各単元に記載されている目標等

2. 授業についての理解を深めるために

(1) 言語活動について

- ④ 学 「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表(小・中：付録8、高：付録10)
- ⑤ 教 各単元の構成、言語活動における目的・場面・状況、内容等
- ⑥ 教 Small Talk や帯活動のテーマ、領域統合等
- ⑦ W nextchannel(文部科学省公式チャンネル)での授業・研修動画の視聴

(2) 言語材料について

- ⑧ 学 「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表(小・中：付録7、高：付録9)
- ⑨ 教 言語材料の使用場面、言語活動・学習活動等
- ⑩ 教 言語材料を指導する学年・時期等

3. 評価についての理解を深めるために

- ⑪ W 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料
- ⑫ 指 各領域の評価問題例
- ⑬ W 学習指導要領実施状況調査や全国学力・学習状況調査(中学校)の問題等
 - [1] R4 小学校学習指導要領実施状況調査 [2] R5 全国学力・学習状況調査

徳島版小中高連携チェックリスト1【詳細版】

～校種間の学びをつなげるために～

(主に各自・各校でできること)

1. それぞれの校種での目標を理解するために

□ ① **学** 「外国語活動・外国語の目標」の学校段階別一覧(小・中：付録6、高：付録8)

→ 学習指導要領における「外国語活動・外国語の目標」、「5つの領域別の目標」を校種別に内容を比較しながら確認することができます。なお、小学校・中学校の学習指導要領には小・中段階のものが、高校の学習指導要領には小・中・高段階のものが一覧で掲載されています。

https://www.mext.go.jp/content/1407196_26_1.pdf

QRコード



□ ② **指** 各領域の学習到達目標(小・中)

→ 小学校・中学校における4技能5領域の学習到達目標を、解説の内容を含めて具体的な内容とともに確認することができます。本資料は「指導と評価の一体化」サイトの小学校・中学校の各領域別ページの参考資料1に掲載されています。(ID：COMPASS パスワード：English)

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private/>

QRコード



□ ③ **教** 目次や各単元に記載されている目標等

→ 教科書の目次や各単元に記載されている目標等から、教科書を通して具体的な目標を知ることができます。また、教科書会社のウェブサイトに掲載されている指導資料等から目標や具体的な指導等について確認することもできます。

2. 授業についての理解を深めるために

(1) 言語活動について

□ ④ **学** 「外国語活動・外国語の言語活動の例」の学校段階別一覧表(小・中：付録8、高：付録10)

→ 学習指導要領における目標に関連する言語活動の例を校種別に内容を比較しながら確認することができます。小学校・中学校の指導要領には小・中段階のものが、高校の指導要領には小・中・高段階のものが一覧で掲載されています。

https://www.mext.go.jp/content/1407196_28_1.pdf

QRコード



□ ⑤ **教** 各単元の構成、言語活動における目的・場面・状況、内容等

- 生徒が教科書の中でどのような言語活動を通して学ぶかを確認することができます。また、教科書会社のウェブサイトに掲載されている指導資料等から言語活動の内容について確認することもできます。

□ ⑥ **教** Small Talk や帯活動のテーマ、領域統合型の言語活動等

- ⑤と関連して、それぞれの校種でどのような形で指導されているかを確認することができます。また、教科書会社のウェブサイトから関連する資料を確認することも可能です。

(2) 言語材料について

□ ⑦ **W** 「mextchannel（文部科学省）外国語教育はこう変わる！」での授業・研修動画の視聴

- 文部科学省の公式チャンネルから、外国語教育について、様々な授業実践や研修の動画を視聴することができます。

「mextchannel 外国語教育はこう変わる！」の動画再生リスト

<https://www.youtube.com/watch?v=5bxsSkxq7Kg&list=PLGpGsGZ3lmbCsze5PvMhQ1TS-jXEZKA4f>

QRコード



□ ⑧ **学** 「外国語の言語材料」の学校段階別一覧表（高：付録9、小・中：付録7）

- 学習指導要領における各校種での言語材料を確認することができます。小学校・中学校の指導要領には小・中段階のものが、高校の指導要領には小・中・高段階のものが一覧で掲載されています。

https://www.mext.go.jp/content/1407196_27_1.pdf

QRコード



□ ⑨ **教** 言語材料の使用場面、言語活動・学習活動等

- 教科書からそれぞれの言語材料が使用されている場面や、どのような言語活動や学習活動を通して児童生徒が学習するかを確認することができます。

□ ⑩ **教** 言語材料を指導する学年・時期等

- 教科書の目次や各単元のページ、教科書会社のウェブサイト等からそれぞれの言語材料を指導する学年や時期などを確認することができます。

3. 評価についての理解を深めるために

□ ⑪ **W** 「指導と評価の一体化」のための学習評価に関する参考資料

→ 国立教育政策研究所のホームページより、各校種における評価に関する参考資料を確認することができます。

<https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shidousiryou.html>

QRコード



□ ⑫ **指** 各領域の評価問題例

→ 「指導と評価の一体化」サイトより、各校種における領域別の評価問題の例を確認することができます。

<https://www.pref.tokushima.lg.jp/compass-private/>

(ID : COMPASS パスワード : English)

QRコード



□ ⑬ **W** 学習指導要領実施状況調査・学習状況調査（中学校）の問題等

→ 国が実施している調査問題を通して、評価について確認することができます。

[1] 令和4年度 小学校学習指導要領実施状況調査

https://www.nier.go.jp/kaihatsu/shido_r04/

[2] 令和5年度 全国学力・学習状況調査

<https://www.nier.go.jp/23chousa/23chousa.html>

QRコード

[1]



[2]



徳島版小中高連携チェックリスト2

～校種間の学びをつなげるために～

(主に校種間の連携を通してできること)

校種間で連携を行う場合に取り組む内容の例です。目的に応じて御活用ください。

1. 校種間での授業の参観を通して

- ① 参観する前に、学習指導要領や教科書等（チェックリスト1参照）を確認する。
- ② 授業参観時に、例えば次のような点に着目して授業を参観する。
 - ・単元の構成（コミュニケーションの目的や場面、状況等の設定）
 - ・言語活動（活動の内容、領域統合等）
 - ・言語面・内容面における指導 ・児童生徒の学習への取り組み
 - ・自分の校種との関連 ・ICTの利活用

2. 校種間連携を意識した授業づくりを目指して

- ③ 各校での目標について、CAN-DOリスト等で共有する。
- ④ 各学年で学ぶ内容や各単元の目標、終末の言語活動等の大まかな内容を共有する。
- ⑤ 言語活動や継続的に取り組んでいる Small Talk や帯活動等について共有する。
- ⑥ それぞれの校種で系統性を意識して指導する内容について共有する。
- ⑦ パフォーマンステストや評価の方法等について共有する。
- ⑧ 授業で使用している教材やワークシートを共有する。
- ⑨ 一人一台端末の活用方法や使用しているアプリ等について共有する。
- ⑩ デジタル教科書（指導者用・学習者用）の活用について共有する。

3. 児童生徒の実態を知るために

- ⑪ 各学校の児童生徒の学習状況について情報交換を行う。
- ⑫ 教員による出前授業を行う。
- ⑬ 児童生徒の学習の成果（ポートフォリオ等）を共有する。